

ノのない方言における「ノダ文」

—山梨県早川町奈良田方言・島根県出雲市平田方言—¹

野間 純平（島根大学）

1. はじめに

本パネルセッションの主題である「ノダ相当形式」は、準体助詞（+コピュラ）がもとになった文末形式である。一方、以下のように、コピュラが準体助詞を介さずに名詞以外の述語につくことができる方言も存在する。

(1) ナカナカ ナオラン ダ。 (なかなかなおらないよ。)

(神部 1982: 236 より、出雲南部の例)

このような方言は「ゼロ準体助詞型方言」などと呼ばれ（彦坂 2006）、主に中部地方や山陰地方に分布していることが知られている（大西 2013）。

本発表では、このような「行くダ」型の表現を便宜的に「ダ形」と呼び、ダ形を持つ方言として、山梨県早川町奈良田方言（以下「奈良田方言」）と島根県出雲市平田方言（以下「平田方言」）を取り上げる。そして、同じダ形を持つ方言の中にも多様性があることを示す。

2. 先行研究と問題のありか

2.1. 先行研究

多くの先行研究では、この「行くダ」は連体形準体法の残存として、「行くノダ」と並行的にとらえられている。大西（2013）では、たとえば次の（2）のような例が存在することを示し、このような例もまた連体形準体法の残存であることを指摘している。

(2) ソレコサ ソレガ コメオ ヒクガ エライダヨ

（それこそ それが 米を 挽くが 大変なのだよ。）山梨県塩山市中荻原

（国立国語研究所『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第8巻』）
このような見方は他の先行研究においてもおおむね一致しており、個別の方言記述においても「用言+ダ」は「用言+ノダ」に対応するものとして記述されている（佐々木 2022:67、小西ほか 2022:128 など）。

一方で、杉浦（2005）は、ゼロ準体助詞型方言における「用言+コピュラ」が先行研究においてしばしばノダ文に相当すると記述されることに対して、以下の（3）から（5）を問題点として指摘している。

(3) その方言におけるその形式が共通語の「ノダ」にあたるという判断は、方言の話
し手もしくは調査者が直観もしくは文脈から下したものである。

(4) その形式が見られる環境すべてにおいて、共通語の「ノダ」にあたるのかについ

¹ 本発表は、JSPS 科研費 22K00598、25K04120、25H00472 および国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」による成果の一部である。

て、十分な検証がない。

(5) 共通語の「ノダ」の性質の検討がない。 (以上、杉浦 2005:7)

これを踏まえて杉浦 (2005) では、談話資料に現れた「用言+コピュラ」の用例を環境ごとに分けてノダに相当するか否かを検討している。しかし、検討しているのはあくまで談話資料に現れた例のみであり、(4) のように「その形式が見られる環境すべて」をカバーしているとは言いがたい。また、杉浦自身も述べているように、(5) の問題は未解決である。

2.2. 本研究の立場

そこで、本研究では、共通調査票を用いてエリシテーション調査を行う（以下の例文における〈 〉内の数字は、野田発表で示された例文番号に対応する）。つまり、標準語のノダ文を当該方言に訳してもらい、そこにダ形が使用できるか否かを記述する。つまり、ダ形がどのような意味を表すかではなく、標準語のノダに当たる意味を表すのにどのような表現が用いられ、そこにダ形がどのように参加するかを明らかにするのである。これにより、(5) の問題にアプローチすることができる。

そして、本発表では、パネルセッションのテーマである「ノダ相当形式の多様性」のうち、「ノのない方言の中の多様性」を示す。そのために取り上げるのが奈良田方言と平田方言であり、それぞれの平叙文および疑問文における「ノダ相当の文」である。

3. 奈良田方言におけるダ形と「ノダ文」

まずは、奈良田方言のダ形とノダ文との対応関係について、小西いづみ氏の調査結果および奈良田方言の文法概説である小西ほか (2022) にもとづいて記述する。奈良田方言は、山梨県南巨摩郡早川町の北端の集落である奈良田で用いられる方言で、周囲の山梨県西部方言とは異なった体系を持つことが知られている。

3.1. コピュラとダ形

奈良田方言におけるコピュラの基本形は「ドー (=doo)」および「ダ (=da)」である。ドーのほうが優勢だが、ダとの用法差はない (小西ほか 2022:109)。

(6) ソリヤー オイシノ {カシドーヨ／カシダヨ}。

それはあなたの菓子だよ。

奈良田方言では、このコピュラが用言にも後接し、形式上「ノダ」に対応するダ形を作る。

(7) シャテーカ° ナイテールドーヨ。

（「さっきから外を見てどうしたの？」と聞かれて）

弟が泣いてるんだよ。

なお、名詞述語のダ形、すなわち「名詞+なのだ」に対応する形はない。

(8) ソーカー アキヤドーナー。

（「ここには誰も住んでいないよ」と言われて）

そうか。空き家なんだな (lit. 空き家だな)。

3.2. 平叙文

奈良田方言の平叙文では、ノダにおおむねダ形が対応する。以下の(9)(10)は、焦点のスコープを述語以外に広げる用法のノダに相当するダ形の例である。「ジャーナイ」はコピュラの否定形（おそらく「デワナイ」の縮約）である。

(9) タローガ サラー ワットージャー ナイヨ。 ハナコガ ワットード一ヨ。
太郎が皿を割ったんじやないよ。花子が割ったんだよ。〈3・4〉

(10) アメガ フットーデ ヤメトージャー ナイヨ。
雨が降ったからやめたんじやないよ 〈6〉

次に、モダリティとしてのノダの用法について述べる。以下の例のように、事態を既定のものとして提示する提示用法においてもダ形が用いられる。(11) や (12) のように、先行発話や文脈に関係づける場合も、(13) のように関係づけない場合もダ形が用いられる。

(11) オリヤー アシタ コノヨ。 ヨージカ。 アルド一ヨ。
俺は明日来ないよ。用事があるんだよ。〈24〉

(12) ヨージカ。 アットード一ヨ。
(昨日どうして来なかつたのか聞かれて) 用事があつたんだよ。〈25〉

(13) オリヤー キニヨー コーフイ イットード一ヨ ソシタイバ
(昨日の出来事を話はじめる) 昨日、甲府に行ったんだよね。そしたら、
同様に、以下の(14)のように、把握用法でもダ形が用いられる。

(14) コノ スイッチオ オスド一ナ。
(独り言で) このスイッチを押すんだな。

3.3. 疑問文

次に、疑問文におけるノダとダ形の対応について記述する。奈良田方言の疑問文については、おおむね小西(2022)にもとづいている。ここでは、そのうちノダと関係する内容についてまとめる(例文の音調記号は省略する)。

奈良田方言の疑問文においては、標準語のノ有り疑問文・ノ無し疑問文のどちらに対応する場合も、述語は非ダ形になる。以下の(15)は発話時における聞き手の判断を問うている文であり、標準語ではノ無し疑問文で表現される。一方、(16)は発話時には既定とされる聞き手の知識を問うている文であり、標準語ではノ有り疑問文が好まれる。奈良田方言では、どちらの場合も、述語がダ形ではない。

(15) コリヨー {クー／クーカ}。
(目の前の料理を指さして) これ食べる？

(16) オイシャー シコ[。] トニ {イクー／イクカ}。
(道で友達に会って) あなたは仕事に {??行く／行くの} ？

同様のことは疑問詞疑問文についても言える。(17)はノ無し疑問文が、(18)はノ有り疑問文がそれぞれ好まれる疑問詞疑問文だが、奈良田方言ではどちらも非ダ形が用いられる。さ

らに、(19) のように、標準語では特にノ有り疑問文が好まれる「なぜ」の疑問文においても、やはり非ダ形が用いられる。

(17) オイシャー ナニオ クー。
(食堂でメニューを渡しながら) あなたは何を食べる?
(18) オイシャー ドコイ {イクー／イクカ}。
(道で友達に会い) あなたはどこに行くの?
(19) ナゼ コノ マダー アイテルー。
どうしてこの窓は {?開いている／開いているの} ?

以上の例から、奈良田方言の疑問文においては、標準語のノ有り・ノ無し疑問文の区別がダ形・非ダ形の対立と対応しているわけではないことがわかる。ただし、ノ有り疑問文に当たる文を、推量形「ヅラカ」を用いて表すことはできる。この「ヅラ」は標準語の「のだろう」に相当する形式であり、自問形式であった「ヅラカ」が問い合わせ用法まで拡張されたものと考えられる。

(20) アメガ フルデ {セノー／セノーカ／セノージラカ}
雨が降るから (運動会を) {*しない／*しないか／しないの} ?

なお、以下の例のように、疑問文でダ形が用いられることがあるが、これらは主文末においては優勢な形式ではないという。

(21) アノ サツマイモデ ヨイダカ。
あのサツマイモでいいの?

4. 平田方言におけるダ形と「ノダ文」

次に、平田方言のダ形とノダ文の関係について、発表者が行った調査および文法概説である野間・友定(2022)にもとづいて記述する。平田方言は、島根県東部の出雲地区のうち、北部に位置する出雲市平田地区(2005年まで平田市)で話される方言である。

4.1. コピュラとダ形

平田方言におけるコピュラの基本形は「ダ (=da)」である。

(22) オラノ オヤジワ イシャダ。
俺のおやじは医者だ。

平田方言では、このコピュラが用言にも後接し、ダ形を作る。

(23) ウワー コゲン イッパイ ホンガ アーダノー。
(友達の本棚を見て独り言で) こんなにたくさん本があるんだ。〈36〉

なお、奈良田方言と同様に、「名詞+なのだ」に対応する形はない。

4.2. 平叙文

平田方言の平叙文では、ノダに相当する箇所でダ形が必ずしも用いられない。(24) (25) が示すように、否定のスコープを述語以外に広げる場合は、否定形「ダナイ」が用いられる

が、(24) の 2 文めのように、肯定の場合はダ形が現れない傾向がある。

(24) アノ サラ タローガ ワッタダ ネジ。 ハナコガ ワッタジ。

あの皿は太郎が割ったんじゃないよ。花子が割ったんだよ。〈3・4〉

(25) アメガ フッタケン ヤメタダ ネジ。

雨が降ったからやめたんじゃないよ。〈6〉

同様に、提示用法においてもダ形が用いられにくい。以下の(26)ではダ形と非ダ形のどちらも回答されているが、ダ形は調査者が使用の可否を確認したものであり、話者から自発的に得られた回答ではない。

(26) チョッコ ヨーガ {アーガ／アーダガ}。

(「私、明日は来ないよ」) ちょっと用があるんだ。〈24〉

さらに、以下のように、文によってはダ形が不自然と回答されることもある。

(27) ダテテ ヨーガ {アッタワナ／*アッタダワナ}。

(「昨日、どうして来なかつたの？」と聞かれて) だって用があつたんだよ。〈25〉

(28) *タブン カイモノ イッチョーダジ。

(「花子はどうしたの？」と聞かれて) たぶん買い物に行つてゐるんだよ。〈28〉

把握用法については、上掲の(23)のように、把握用法でもダ形が使用可能な場合もあるが、次の(29)のように、ダ形が不自然と判断される例もある。

(29) *タブン カイモノニ イキチョーダ。

(花子がいないことに気づいて独り言で) たぶん買い物に行つてゐるんだ。〈32〉

以上のように、平田方言の平叙文におけるダ形（特に肯定形）は、標準語のノダと対応しているとはいがたい。まったく対応していないわけではないが、標準語のノダほど選好されるわけではない。平叙文におけるダ形の使用可否に関する規則は未解明な点が多いが、少なくともこの点においては奈良田方言との違いが明確であるといえる。

4.3. 疑問文

平田方言の疑問文では、(30)のように標準語のノ有りに対応する場合も、(31)のようにノ無しに対応する場合も、述語が同じ形をとり、ダ形にはならない。

(30) ナニ クーカネ。

(食堂でメニューを見ながら) 何食べる？

(31) オイ オマエ ドコエ イクカネ。

(道端で会つた友達に) おい、お前、どこへ行くの？

また、(32)のように焦点が述語以外にある場合や、(33)のような「なぜ」疑問文でも、ダ形ではない形が用いられる。

(32) アメガ フッタケン オクレタカイ。

雨が降つたから遅れたの？ 〈11〉

(33) キョーワ ナシテ オクレタカイ。

今日はなぜ遅れたの？ 〈10〉

以上のように、平田方言では、標準語のノ有り疑問文とノ無し疑問文に対応する区別をしない。ダ形が疑問文で用いられることがあるが、それはノ有り疑問文に対応するのではなく、〈必要・妥当〉という意味を持ち、「～しなければならないのか」「～することになっているのか」という問い合わせをすることが明らかになっている（野間 2025 予定）。たとえば、次の（34）は上記の（31）とは違ってダ形が用いられているが、これは「会社から出張を命じられた」という文脈があるためである。

（34） ソーデ ドコエ イクダカネ。

（出張に行くことになったと聞いて）それで、どこへ行くの？

このように、平田方言の疑問文におけるダ形は、標準語のノ有り疑問文と一部重なるところはあるものの、基本的には別のはたらきをしていると言える。

5. 奈良田方言と平田方言の位置づけ

以上、本発表では、奈良田方言と平田方言を取り上げ、ノダに相当する意味がどのように表され、そこにダ形がどのように参加するかを記述した。どちらも「ノのない方言」ではあるが、ノダに相当する意味とダ形とが完全に対応しているわけではなく、その対応のあり方にも方言差があることが明らかになった。奈良田・平田方言以外のダ形を持つ方言も含めて、さらに記述を進めることで、ダ形を持つ方言における「ノダ文」の多様性が明らかになると考えられる。

【参考文献】

大西拓一郎（2013）「用言準体法の分布と形式」熊谷康雄（編）『大規模方言データの多角的分析成果報告書—言語地図と方言談話資料—』59-68, 国立国語研究所.

小西いづみ（2022）「山梨県奈良田方言の疑問文—準体助詞のない方言におけるスコープ、事態既定性—」『日本語文法学会第 23 回大会発表予稿集』1-8.

小西いづみ・三樹陽介・吉田雅子（2022）「山梨県早川町奈良田」セリック, ケナン・木部暢子・五十嵐陽介・青井隼人・大島一（編）『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』77-150, 国立国語研究所.

佐々木冠（2022）「千葉県南房総市三芳地区」セリック, ケナン・木部暢子・五十嵐陽介・青井隼人・大島一（編）『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』37-76, 国立国語研究所.

杉浦滋子（2005）「「ノダ」をもたない方言の諸相」『言語と文明：麗澤大学大学院言語教育研究科論集』3 : 3-20.

野間純平（2025 予定）「島根県出雲市平田方言の疑問文における「ダ」—「行くダカ」は「行くのか」と同じか—」日本方言研究会（編）『方言の研究 11』ひつじ書房.

野間純平・友定賢治（2022）「島根県出雲市平田」セリック, ケナン・木部暢子・五十嵐陽介・青井隼人・大島一（編）『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』215-266, 国立国語研究所.

彦坂佳宣（2006）「「行くダ」などの言い方をする方言群とその性格」『名古屋・方言研究会会報』